

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 22 年 10 月 1 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3471501803		
法人名	株式会社 ハートランド		
事業所名	ハッピーハート		
所在地	広島県福山市高西町三丁目10番21号 (電話) 084-930-4703		
自己評価作成日	平成22年10月1日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先UR	http://www.hksjks.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3471501803&SCD=320
------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成22年10月21日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none">・本人の居場所でその人らしい生き方を実現・継続していけるよう、共に生活していくために、今何が出来るかを常に考えながら、職員全体で日々の関わりを行っている。・住環境として畑や花壇の管理を行い、野菜や花などの季節感を大切にしてく中で、五感で感じる生活感覚を大切にしている。・家族との関わりの中で、日々の生活を知っていただくためや遠方の家族のために、ホームページから日々の写真の閲覧が行えるよう細やかに更新を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

河川沿いの広い敷地に建つ明るい洋風な平屋の建物で、花壇や菜園も有り、季節を感じられる自然豊かで静かな環境のホームである。日々の生活はその人らしい生き方を支えていくことを念頭に、自由な雰囲気の中、手芸や裁縫など趣味や得意分野を楽しめる本人本位の個別の支援がなされている。また、外出や通院介助も日常的に行われており、定期的に健康状態や受診報告を行い家族と情報の共有を図っている。毎月発行の幸心通信や、ホームページを活用して、家族が利用者の日常の様子を見たり、また家族の要望、気づきや意見を受け入れたりして、サービスの向上に努めている。また、地域の一員として、町内会行事の運動会や文化祭には、利用者と共に参加したり、地域住民の相談、講演を受け入れるなど積極的に地域の人々と交流している。
--

ユニット 幸

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「本人の居場所でその人らしい生き方を実現・継続していけるよう共に生活してゆく」を指針とした理念を、全職員がミーティング等の機会を通じて、確認等を行い取り組んでいる。	事業所の理念に基づいて、日々の生活の中でその人らしい生き方が実現できるよう支援に取り組んでいる。また、毎月1回のミーティングで、全職員は理念の確認を行い、共通認識のもと実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域住民の一員として、町内会に加入し、行事等には利用者とともに積極的に参加している。また、日頃の挨拶はもちろん、散歩や買い物に出かけ、近所の人達との関係を深めている。	町内の清掃作業や、町内会行事の運動会や文化祭に、利用者と共に参加している。文化祭では布ぞうり、カレンダー、パッチワークを出店したり、相談コーナーの設置も行うなど地域との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域住民の相談や地域団体の講演依頼などに柔軟に対応し、認知症や介護保険などに関する説明や講演を実施している。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、報告や情報交換以外に、参加者からの率直な意見を引き出し、サービスの向上に活かせるよう取り組んでいる。	2ヶ月ごとに開かれる運営推進会議では、地域包括支援センター職員、民生委員、利用者、家族、ホーム関係者の参加のもと、運営報告や意見交換を行い、情報の共有に努め、率直な意見や要望がでるよう働きかけている。参加メンバーの利用者からの希望や意見には、迅速な対応に努めている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市町が行う介護相談員の受入などへの協力依頼の受託を行っている。また日頃より、必要に応じた窓口担当者との情報交換も行っている。	市とは必要に応じて相談したり、今年から介護相談員の受け入れを行ったりして協力関係を築いている。	

ユニット 幸

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束についてのマニュアルを作成し、職員間で身体拘束についての利用者が受ける身体的・精神的弊害を理解し、拘束の無いケアを行っている。利用者個々の行動を把握し、見守りや職員の連携により不要な鍵の使用を行わないよう取り組んでいる。	全職員が身体拘束について理解した上で、拘束のないケアを行っている。玄関の鍵は見守り体制が整う日中は開いており、利用者の外出の様子に、声かけや見守りで支援している。訪問中に、ひとりで庭に出てこられ、ゆったりと過ごされている利用者の姿が見られた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	日常よりミーティング等を通じて虐待防止に向けての周知徹底を行っている。	/	/
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	利用者、家族等に成年後見人制度などについて情報を提供している。	/	/
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居前の問い合わせや面接時も含め、入居時に契約書・重要事項説明書により丁寧に、また利用者及び家族の立場で、将来のことも含めて疑問等を引き出して説明を行っている。	/	/
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日頃から利用者本人の意見を引き出せるよう、コミュニケーションの確保や一緒に過ごす事を心がけている。意見箱の設置や運営推進会議等での意見の引き出しも行うが、日頃の面会や行事参加時の家族との関わりに重点を置き、意見や要望の把握を行っている。ホームページでも意見聴取の窓口を作成している。	家族が年2回の行事（花見・夏祭り）、誕生会、運営推進会議に参加や訪問時には、積極的にコミュニケーションを図って意見を聞くようにしている。またホームページにも意見聴取の窓口がある。出された意見は職員全員で話し合い運営に反映させている。	

ユニット 幸

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	勉強会や月1回のミーティング等で意見交換を実施している。	日頃から職員は代表者や管理者と気軽に話ができる関係にあり、職員間でも話し易い雰囲気がある。	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	資格手当や管理手当、盆・正月の特別手当や被服費の支給など、職員個々の働きやすさを考慮した仕組みの実践を心がけている。産休・育休の活用も奨励したりしている。毎月、事前に職員個々の勤務希望を確認し調整している。	/	/
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	日常の業務体験を主に、実践力の向上を図っていく中で、施設内勉強会の実施や施設外研修への参加を奨励しており、必要に応じての勤務調整や研修費の支援を行っている。各種研修資料や参考書などを掲示し、個々の向上を支援している。	/	/
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	日頃より、近隣のグループホームや他の圏域のグループホームとの情報交換や職員交流を行い、サービスの向上に役立っている。	/	/
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	職員の面接により、入居前の本人の意向や生活状況の把握及び職員間での共有を図る。入居時はより密な関わりを持つ中で、安定した生活スタイルを本人と共に確立してゆけるよう支援している。一緒にいる時間を多く持ち、言葉のみではない本人のニーズを汲み取れるよう心がけている。	/	/

ユニット 幸

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前には必ず施設見学・面接の時間を設け、家族等の問い合わせやニーズを把握し、速やかな対応を心がけている。入居直後は家族との連絡調整を密にして、ニーズに合った対応を確立してゆけるよう心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前、直後の本人及び家族の情報収集の徹底を図り、柔軟な対応を心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	一緒に過ごすことを大切にしながら、利用者から生活の技や生活文化などについて、教えてもらう場面を大切にしたりなどの支援を行っている。生活の中で少しでも本人が出来る事を見つけ、実施していただくよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	行事への参加を呼びかけたり、面会時や手紙の送付などにより、家族との情報交換を密に行い、本人の状況の理解の共有を図っている。またホームページにより日々の生活状況の写真が閲覧できるよう細やかな更新を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	利用者の入居前の理解を深め、家族や昔の写真などを居室においたりして、関係の継続を支援している。本人から家族宛の手紙の送付を行ったり、外出の調整をお願いしたりしている。	利用者の親族の結婚式へは、職員が同行し車椅子での参加や、利用者の近所の馴染みの人の訪問など、関係継続の支援に努めている。職員の墓参りの同行をきっかけに、その後は家族と一緒に墓参りに行くなど、本人と家族の絆を大切にしながら支援している。	

ユニット 幸

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。</p>	利用者同士の関係性についての状況把握に努め、職員間で共有できるようにしている。なるべく集団参加の時間を設け、利用者が孤立しないよう心がけている。		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。</p>	形式的ではなく、情報提供や面談などを必要に応じ実施している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	<p>○思いやりや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	日々のかかわりの中で声かけや見守りに重点を置き、本人の意向や希望が把握できるように努めている。	担当制にしたことにより、利用者との生活が密になり、日々の寄り添いやかかわりの中から、言葉、表情や行動から思いや意向の把握に努めている。	
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	入居前の自宅訪問や面談、また入居後の本人・関係者からの聞き取りを行っている。		
25		<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。</p>	日々の生活状況の把握を行いながら、定期的なアセスメントを行い、本人の能力や認知力などを総合的に考察し、援助の指針としている。		

ユニット 幸

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>面会時やミーティング時のカンファレンスなどにより、家族や関係者の意向や意見、アイデアを反映しながら本人本意の計画作成に努めている。</p>	<p>本人や家族の意向や意見を聞き、また担当者やその他の職員の意見も取り入れながら、本人がその人らしく暮らし続けられる介護計画を作成することに努めている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の個別記録や生活記録などを利用し、情報共有や介護計画の見直しに活かしている。</p>	/	/
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>職員同行による結婚式への参加など、本人や家族の状況に応じた通院介助や外出支援、生活支援を実施できるよう取り組んでいる。</p>	/	/
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>ピアノ・傾聴などのボランティアの協力や民生委員などとの情報交換を行っている。</p>	/	/
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>本人・家族等と受診先や通院方法、情報提供についての検討を実施しながら対応している。必要に応じた電話報告や手紙による定期的な通院報告を実施している。</p>	<p>かかりつけ医の受診には管理者が同行し、普段の様子や変化を伝え、医師との情報交換を密におこなっている。また、訪問診療を利用するケースもあり、利用者本位の適切な医療に繋げている。受診時の情報は家族に電話や手紙で報告している。</p>	

ユニット 幸

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	ホームに3名の常勤准看護師を配置し、日々の健康管理や地域医療との連携を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族等とも協働しながら、医療機関と三者一体となり退院を目指している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に、重度化に伴う意思確認書を作成し、事業所が対応できるケアについて説明を行っている。重度者や終末期の利用者を支えられるよう、業務の調整や職員の理解を深めながら、医療者や家族等の協力体制が得られる取り組みを実施している。	入居時に家族に終末期ケアにおける確認書の同意を得ている。看取りの経験も多く医師、家族、職員が連携し、協力しながら、状況の変化に応じて、随時意思を確認し、対応を検討している。治療経過を詳細に記録し、全職員に情報を共有し、看護職員と共に主治医の指示による可能な医療行為を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	夜間の急変や事故発生時の連絡方法や対応方法など、マニュアルを作製・配布し周知徹底を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	マニュアルの作成・配布を行い、年2回の防火訓練の実施・防災器具の点検、毎日の火元の点検を実施している。防災時の台帳を作成・掲示している。	昼間と夜間を想定した年2回の防火訓練を利用者も参加して実施している。避難場所には地域のコミュニティーセンターを確保している。毎日、火元の点検を実施し、点検簿に記録するなど予防重視に努めている。	

ユニット 幸

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ミーティングを通して、個人情報やプライバシーについての確認を行いながら、日々の業務に取り組んでいる。集団での関わりと個別での関わりを、使い分けたりしながら支援している。	個人情報やプライバシーの確保については、ミーティングで十分話し合い、理解して業務に取り組んでいる。個人情報の取り扱いについては、ホームページはパスワードを毎月変更するなど、適切に管理し、個人情報の保護が徹底されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	コミュニケーションや接客技法などの勉強会等を行い、利用者の希望の表出や自己決定が図りやすいよう心がけている。	/	/
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者個々に合った生活のサポートを介護計画に取り込みながら、日々柔軟な対応が行えるよう取り組んでいる。	/	/
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人の意向を基本にした着衣などの支援を行い、理美容もなるべく本人の意向を引き出しながら、カットや毛染めなどを実施してもらっている。	/	/
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	個々の能力や意欲に応じて、調理や片付けの手伝いなどを職員・利用者とともに実施している。	3食とも業者委託であるが、個別に嫌いな食品を変更したり、ご飯の量を調整している。食器の返却や、拭いたりなどの片付けは利用者と共に実施している。また月に1、2回は利用者と共に食事を作ったり、菜園で取れた野菜を食したり、おやつ飲み物はメニュー表を見て選んだり、外食に出かけたり、食事を楽しむ支援をしている。	

ユニット 幸

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>利用者個々に応じた食事量を調整したり、摂取量の把握を行い、食生活の安定を心がけている。栄養士管理の献立・食事を提供している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後のうがいや歯磨きを中心に，個別にあった口腔ケアの実施している。また必要に応じ歯科治療の支援を行っている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄チェック表により，排泄パターンや身体能力などを把握し，個々の能力にあった対応を個別に検討しながら，排泄の援助を行っている。安易なおむつの使用は避けるよう心がけている。</p>	<p>トイレでの排泄を大切にするために，日中は排泄パターンを把握してトイレへ誘導している。夜間、部屋にポータブルトイレを設置して対応している利用者もいる。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>個々の生活の中で食事や水分・運動推進のサポートを行い，排泄の支援を行っている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>入浴の好き嫌いや皮膚状態や衛生状態の把握を行うと共に，身体能力に合わせた入浴補助具の準備や声かけの工夫など，個々に合わせた入浴支援をおこなっている。</p>	<p>入浴は利用者の希望に合わせるように対応している。風呂が好きでない利用者にも無理強ひせず、タイミングをはかって何度も声かけをするなど、利用者ごとに工夫している。</p>	

ユニット 幸

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	経過記録等から睡眠状態の把握を行い、なるべく日中の活動を促して、生活リズムを整えるよう支援している。		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	治療状況や服薬状況が把握できるよう書類を整備し、内容の理解共有を行っている。利用者の認知力の状態により、管理や服薬時の支援を行っている。		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	まずは生活歴の把握を行い、現在の能力に合った役割や楽しみが実践できるよう、誘導や声かけ・見守りを行っている。また新たな役割の可能性も、必要に応じて検討したりしている。		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	結婚式への参加や習い事への参加など、個々のニーズにこたえられるよう、利用者や家族等と相談し協力を得ながら実現に取り組んでいる。日常的には安全面を考慮しながら、散歩やドライブ、買い物などに出かけている。	週2回は、利用者の体調を考慮しながら車椅子の利用者も含めて、一緒に買い物に出かけたり、花見の外出や、誕生日の外出など利用者の希望を聞き、できるだけ外出の機会が持てるよう支援している。	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	能力や本人の希望を確認しながら、必要に応じての金銭の所持を行い、安心感や満足感が得られる支援を実施している。		

ユニット 幸

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>季節の手紙や職員の家族連絡などに、本人の言葉を書いていたいたり、希望時の一般電話の使用や携帯電話の使用のサポートを行ったりと、通信の支援を行っている。</p>	/	/
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>馴染みやすい備品の配置や採光を心がけた対応を行っている。なるべく施設風にならないよう心がけている。換気や室温調整は日常業務に位置づけ、常に気配りを行っている。各居室やホールに温度計を設置している。芝生や花壇、鉢植えを整備し、草取りや水やりなどの活動場面のセッティングなどを行っている。</p>	<p>天窓で明るい居間兼食堂は広くゆったりしていて、ウッドデッキから庭や、菜園が眺められる。また壁には手芸品や利用者の写真が飾られている。ソファやテーブルと共に一角には職員の事務机もあり、利用者が安心して居心地よく過ごせる環境になっている。</p>	/
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>ソファや椅子の配置、スペースの作り方など、多岐な利用が図れる空間作りに取り組んでいる。</p>	/	/
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>本人の意向を大切にしながら、自宅で使い慣れた馴染みの備品や布団、家族の写真などを持ち込んでもらい、居心地の良い居室作りに取り組んでいる。</p>	<p>ベッドは備え付けだが、タンスなどの家具や布団は好みのものや、使い慣れたものが持ち込まれていて、居心地の良い居室となっている。家と同じように畳にコタツでの寝床の利用者もいて本人本位の工夫が見られる。</p>	/
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>自発的な活動意欲が向上するような、個々の能力に応じた環境整備に取り組んでいる。混乱を招くような環境の因子を把握し、速やかな修正を行っている。</p>	/	/

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

ユニット 心

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「本人の居場所でその人らしい生き方を実現・継続してゆけるよう共に生活してゆく」を指針とした理念を、全職員がミーティング等の機会を通じて、確認等を行い取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域住民の一員として、町内会に加入し、行事等には利用者とともに積極的に参加している。また、日頃の挨拶はもちろん、散歩や買い物に出かけ、近所の人達との関係を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域住民の相談や地域団体の講演依頼などに柔軟に対応し、認知症や介護保険などに関する説明や講演を実施している。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、報告や情報交換以外に、参加者からの率直な意見を引き出し、サービスの向上に活かせるよう取り組んでいる。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市町が行う介護相談員の受入などへの協力依頼の受託を行っている。また日頃より、必要に応じた窓口担当者との情報交換も行っている。		

ユニット 心

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束についてのマニュアルを作成し、職員間で身体拘束についての利用者が受ける身体的・精神的弊害を理解し、拘束の無いケアを行っている。利用者個々の行動を把握し、見守りや職員の連携により不要な鍵の使用を行わないよう取り組んでいる。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>日常よりミーティング等を通じて虐待防止に向けての周知徹底を行っている。</p>	/	/
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>利用者、家族等に成年後見人制度などについて情報を提供している。</p>	/	/
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入居前の問い合わせや面接時も含め、入居時に契約書・重要事項説明書により丁寧に、また利用者及び家族の立場で、将来のことも含めて疑問等を引き出して説明を行っている。</p>	/	/
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>日頃から利用者本人の意見を引き出せるようコミュニケーションの確保や一緒に過ごす事を心がけている。意見箱の設置や運営推進会議等での意見の引き出しも行うが、日頃の面会や行事参加時の家族との関わりに重点を置き、意見や要望の把握を行っている。ホームページでも意見聴取の窓口を作成している。</p>		

ユニット 心

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	勉強会や月1回のミーティング等で意見交換を実施している。日常的に意見が言える環境や関係性を大切にしている。		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	資格手当や管理手当、盆・正月の特別手当や被服費の支給など、職員個々の働きやすさを考慮した仕組みの実践を心がけている。産休・育休の活用も奨励したりしている。毎月、事前に職員個々の勤務希望を確認し調整している。		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	日常の業務体験を主に、実践力の向上を図っていく中で、施設内勉強会の実施や施設外研修への参加を奨励しており、必要に応じての勤務調整や研修費の支援を行っている。各種研修資料や参考書などを掲示し個々の向上を支援している。		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	日頃より、近隣のグループホームや他の圏域のグループホームとの情報交換や職員交流を行い、サービスの向上に役立っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	職員の面接により入居前の本人の意向や生活状況の把握及び職員間での共有を図る。入居時はより密な関わりを持つ中で、安定した生活スタイルを本人と共に確立してゆけるよう支援している。一緒にいる時間を多く持ち言葉のみではない本人のニーズを汲み取れるよう心がけている。		

ユニット 心

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前には必ず施設見学・面接の時間を設け、家族等の問い合わせやニーズを把握し速やかな対応を心がけている。入居直後は家族との連絡調整を密にしてニーズに合った対応を確立してゆけるよう心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前、直後の本人及び家族の情報収集の徹底を図り、柔軟な対応を心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	一緒に過ごすことを大切にしなが利用 者から、生活の技や生活文化などについて教えてもらう場を大切にしたりなどの支援を行っている。生活の中で少しでも本人が出来る事を見つけ実施していただくよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	行事への参加を呼びかけたり、面会時や手紙の送付などにより、家族との情報交換を密に行い、本人の状況の理解の共有を図っている。またホームページより日々の生活状況の写真が閲覧できるよう細やかな更新を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	利用者の入居前の理解を深め、家族や昔の写真などを居室においたりして関係の継続を支援している。本人から家族宛の手紙の送付を行ったりしている。		

ユニット 心

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。</p>	利用者同士の関係性についての状況把握に努め、職員間で共有できるようにしている。なるべく集団参加の時間を設け、利用者が孤立しないよう心がけている。		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。</p>	形式的ではなく、情報提供や面談などを必要に応じ実施している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	<p>○思いやりや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	日々のかかわりの中で声かけや見守りに重点を置き、本人の意向や希望が把握できるように努めている。		
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	入居前の自宅訪問や面談、また入居後の本人・関係者からの聞き取りを行っている。		
25		<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。</p>	日々の生活状況の把握を行いながら、定期的なアセスメントを行い、本人の能力や認知力などを総合的に考察し、援助の指針としている。		

ユニット 心

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>面会時やミーティング時のカンファレンスなどにより、家族や関係者の意向や意見、アイデアを反映しながら本人本意の計画作成に努めている。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の個別記録や生活記録などを利用し、情報共有や介護計画の見直しに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>職員同行による結婚式への参加など、本人や家族の状況に応じた通院介助や外出支援、生活支援を実施できるよう取り組んでいる。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>ピアノ・傾聴などのボランティアの協力や民生委員などとの情報交換を行っている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>本人・家族等と受診先や通院方法、情報提供についての検討を実施しながら対応している。必要に応じた電話報告や手紙による定期的な通院報告を実施している。</p>		

ユニット 心

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	ホームに3名の常勤准看護師を配置し、日々の健康管理や地域医療との連携を行っている。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	家族等とも協働しながら医療機関と三者一体となり退院を目指している。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	入居時に、重度化に伴う意思確認書を作成し、事業所が対応できるケアについて説明を行っている。重度者や終末期の利用者を支えられるよう、業務の調整や職員の理解を深めながら、医療者や家族等の協力体制が得られる取り組みを実施している。		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	夜間の急変や事故発生時の連絡方法や対応方法などマニュアルを作製・配布し周知徹底を行っている。		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	マニュアルの作成・配布を行い、年2回の防火訓練の実施・防災器具の点検、毎日の火元の点検を実施している。防災時の台帳を作成・掲示している。		

ユニット 心

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ミーティングを通して個人情報やプライバシーについての確認を行いながら日々の業務に取り組んでいる。集団での関わりと個別での関わりを使い分けたりしながら支援している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	コミュニケーションや接客技法などの、勉強会等を行い利用者の希望の表出や自己決定が図りやすいよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者個々に合った生活のサポートを介護計画に取り込みながら、日々柔軟な対応が行えるよう取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人の意向を基本にした着衣などの支援を行い、理美容もなるべく本人の意向を引き出しながらカットや毛染めなどを実施してもらっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	個々の能力や意欲に応じて、調理や片付けの手伝いなどを職員・利用者とともに実施している。		

ユニット 心

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	利用者個々に応じた食事量を調整したり、摂取量の把握を行い、食生活の安定を心がけている。栄養士管理の献立・食事を提供している。		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	毎食後のうがいや歯磨きを中心に、個別にあった口腔ケアの実施している。また必要に応じ歯科治療の介入を行っている。		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	排泄チェック表により排泄パターンや身体能力などを把握し、個々の能力にあった対応を個別に検討しながら排泄の援助を行っている。		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	個々の生活の中で食事や水分・運動推進のサポートを行い、排泄の支援を行っている。		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	入浴の好き嫌いや皮膚状態や衛生状態の把握を行うと共に、身体能力に合わせた入浴補助具の準備や声かけの工夫など、個々に合わせた入浴支援をおこなっている。		

ユニット 心

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	経過記録等から睡眠状態の把握を行い、なるべく日中の活動を促して生活リズムを整えるよう支援している。		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	治療状況や服薬状況が把握できるよう書類を整備し、内容の理解共有を行っている。利用者の認知力の状態により、管理や服薬時の支援を行っている。		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	まずは生活歴の把握を行い、現在の能力に合った役割や楽しみが実践できるよう誘導や声かけ・見守りを行っている。		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	結婚式への参加や習い事への参加など、個々のニーズにこたえられるよう、利用者や家族等と相談し協力を得ながら実現に取り組んでいる。日常的には安全面を考慮しながら、散歩やドライブ、買い物などに出かけている。		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	能力や本人の希望を確認しながら、必要に応じての金銭の所持を行い、安心感や満足感が得られる支援を実施している。		

ユニット 心

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	季節の手紙や職員の家族連絡などに本人の言葉を書いていたいたり、希望時の一般電話の使用や携帯電話の使用のサポートを行ったりと通信の支援を行っている。	/	/
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	馴染みやすい備品の配置や採光を心がけた対応を行っている。なるべく施設風にならないよう心がけている。換気や室温調整は日常業務に位置づけ、常に気配りを行っている。各居室やホールに温度計を設置している。芝生や花壇、鉢植えを整備し、草取りや水やりなどの活動場面のセッティングなどを行っている。	/	/
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファや椅子の配置、スペースの作り方など、多岐な利用が図れる空間作りに取り組んでいる。	/	/
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人の意向を大切にしながら、自宅で使い慣れた馴染みの備品や布団、家族の写真などをもち込んでもらい、居心地の良い居室作りに取り組んでいる。	/	/
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	自発的な活動意欲が向上するような、個々の能力に応じた環境整備に取り組んでいる。混乱を招くような環境の因子を把握し、速やかな修正を行っている。	/	/

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 ハッピーハート

作成日 平成 22年 11月 4日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	49	日常の買い物や散歩以外の外出希望への支援が不十分である。	利用者が行いたい外出を実現する。	利用者のニーズを的確に把握し、円滑な支援が行えるよう計画書の作成を行う。	12ヶ月
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。